

私の住む町、長沼町。今、長沼にはマオイの名水と言われるおいしい湧き水や、長沼の水で作られる新鮮な農作物がある。中でも、水が肝心なお米はとてもおいしい。水に恵まれた長沼だが、昔は水害の多い町だった。長沼に人が住むようになってからの百五十年の間に、約七十回以上の水害が起きている。

「長沼の水害」。そう聞いて思い出すのは、小学校の壁に飾られた数枚の写真。モノクロで色あせたその写真には、被害を受けた当時の長沼町の姿があった。小学校の頃は何も気に留めなかったが、中学生になって長沼の歴史を学び、水害との壮絶な戦いを知ったのだ。水害は、多くの命を奪い、懸命に育てた農作物も全て流してしまった。水害からこの町を守ろうと、河川の切替工事や排水機場の設置など、先人たちは長い年月をかけて治水のために力を注いできた。「長沼の水害を忘れない」。「先人の苦勞を忘れない」。それが写真に込められた思いだったのだ。私たちが今、安心して長沼に暮らせるのは、水害と戦い続けてきた先人たちのおかげだったのだ。

長沼の先人たちが、水害に立ち向かいながら、安心して暮らせる今の長沼町をつくり、私たちに安心安全な水を届けてくれた。長沼に限らず、どの町の先人たちも、みな自分たちの町を守るため、水と戦ってきたはずだ。そうした歴史があるから、今の私たちの暮らしが成り立っている。私たちは、これからも、水に向き合い、水と共に生きていかなければならないのだ。だが、水と共に生きることの苦勞や努力、その重要さを、今の私たちはどれだけ理解しているのだろうか。

料理やお風呂、トイレに洗濯。私たちは当たり前のように日々の生活の中で水を使っている。水不足が話題になる中、水に無関心になってしまい、無意識のうちに水を無駄遣いしてしまっているのだ。生活排水も考慮すべきことだ。調理の油や食器洗いの洗剤。汚水を水道に流せば、浄化するのに大量の水が必要となる。さらに水不足が深刻化してしまうのだ。水を守り続けてきた先人たちが、今の水の使い方を知れば、どう思うだろうか。

今、地球規模で水不足が問題となっている。つまり、人間にとって大切な水と共に生きていくことが、危うくなっているということだ。にもかかわらず、水に無関心で、誰もがいつの間にか、水を無駄遣いしている。今現在、水を使っているからと安心してはいけない。これからの水の未来が、危険にさらされているという現状を理解すべきだ。

だから、今すぐに一人一人が水を大切にし、水を守っていくべきなのだ。私も、先人たちが届けてくれた長沼の水を、これから先も守っていくため、まずは節水を心がけようと思う。長沼町民一人一人が一日一リットルの水を節約するだけで、全体で見れば毎日一万リットルもの水が節約できる。日本人全員が、同じように節水に取り組めば、一日一億リットルの節水になる。水を守っていく大きな取組になっていくはずだ。

私たちの日々の生活に必要な水。毎日の節水や水を守るための小さな心がけで、これから先も、水を使い続けることができる。先人から受け継いだ水を、私たちが守り、そして未来へと、渡していく使命がある。私が、私たちが、過去と現在、そして未来への水を繋ぐ架け橋になるべきだ。中学生の私にできることは小さな取組かもしれない。だが、家では家族と、学校では仲間と、日々の節水など、水を守ることを心がけようと思う。

水の大切さに気づかせてくれたあの写真の中に暮らす長沼の先人たちに、「ありがとう」の感謝の言葉と、水と共に生きている今の町の姿を贈りたい。これからも水と共に生きていこう。そしてこの水を、未来へと繋いでいくのだ。